

2020年度 社会貢献教育 事業報告書



Annual Report 2020

日本ファンドレイジング協会



「社会貢献は誰かがやってくれると思っていました。
でも、その「誰か」に私がならなければいけないと思いました」



「家に帰ろうとしたとき、家がない人はどんな気持なんだろうと思いました」



Special Thanks

ご寄付を託してくださった皆様、パートナー企業の皆様、授業をともに作り上げてくださった教員・ファシリテーターの皆様、NPO関係者の皆様、そして授業に参加してくれたすべての子ども達に心から感謝いたします。

子ども達を信じ、その手に託してくださった皆様の想いが、
彼らの学びをより深いものとなりました

誰もが等しく困難に直面した2020年、学校現場では、生徒が学校に集まり対面で授業を行うという当たり前のことが当たり前でなくなり、学校とは何のための場所なのかということが問い直される一年になりました。

勉強する場としての学校を守ることすら困難な中であって、社会貢献教育を子ども達に体験させたいと願う先生方や寄付者の皆様との出会いがありました。「Learning by Giving」のためのクラウドファンディングには、過去最多となる201名の方々から、510万円ものご寄付が寄せられました。

ご挨拶

子ども達が未知の社会課題と出会い、自分の、そして人の価値観に向き合う経験を経て、社会貢献とは何かを学ぶ同プログラムは、コロナ禍の今年、その本質的価値が再認識されることとなりました。

この半年あまりの間、授業を通じて寄付者の想いに必死に伝えようとする子ども達の姿を見てきました。子ども達を信じ、その手に託してくださった皆様の想いが、彼らに届き、その学びをより一層深いものとしたことを確信しています。

コロナ禍の2020年、困難の中をともに歩んでくださった皆様への感謝とともに、活動内容のご報告を致します。どうか引き続き同プログラムに力強いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2021年5月

認定NPO法人日本ファンドレイジング協会
社会貢献教育事業責任者 大石 俊輔

1 これまでの歩み Footprints

子ども達が寄付やボランティアといった社会貢献を学ぶ授業を全国の学校に届ける取組みは2010年に始まり、コロナ禍の今年その本質的な価値が再確認されることになりました。

2015

「社会貢献教育オープンシンポジウム 2015」初開催
取組みを共有する場として以後毎年開催される



「社会に貢献する - Youth Philanthropy in Global Community」を出版

2017

累計受講者数5,000人

初のクラウドファンディングを実施
(寄付者数88名・寄付総額1,005,000円)



2021

Learning by Givingのためのクラウドファンディング
を実施（過去最多寄付者数201人・寄付総額510万円）



累計受講者数1万人突破

2010

初めての「寄付の教室」を開催
初年度は7校219名が受講



2016

米国外で初めて「Learning by Giving」プログラム
を実施（東京学芸大学附属国際中等教育学校）



2020

社会貢献教育ポータルサイト完成



2 社会貢献教育が必要とされる背景

Background

社会貢献教育の日本の現状

current education in Japan

7.2%

出典：日本ファンドレイジング協会（2015）
「寄付白書2015」

日本では、「社会に役立ちたい」と考える人が7割近くに達している一方、実際に寄付やボランティアなどを行っている人は3～4割と、意識と行動の間にギャップが生じています。更に、年代別では20代が最も寄付・ボランティアを行っている割合が低く、10～20%に留まります。この背景にはいくつかの理由が考えられますが、ひとつには学校教育の中で正しい形で寄付や社会貢献について教えられていないことが考えられます。事実、日本では授業で寄付を学んだことがある人は7.2%と1割以下に留まっており、殆どの日本人が寄付の役割や寄付を通じた社会とのつながりなどを教えられてきていないのです。

当会は「寄付の教室」「Learning by Giving」「社会に貢献するワークショップ」という独自のプログラムで、社会貢献について楽しみながら学ぶ機会を子ども達に届けています。

寄付の教室

寄付の疑似体験を通じて楽しみながら寄付について学ぶプログラム



Learning by Giving

社会課題を調べ、寄付先を決めて、実際にお金を寄付するプログラム



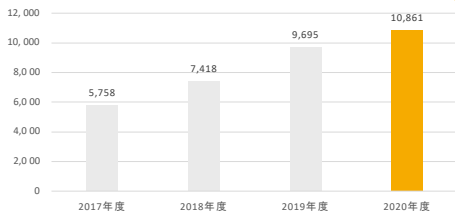
社会に貢献するワークショップ

社会に貢献することの意味や方法を知るワークショップ型のプログラム

3 2020年度 活動実績 Highlights of 2020

コロナ禍で学校での活動が困難な中、35教室を開催し1,166名の生徒がプログラムを受講しました。事業開始以来の開催校数は336教室、累計受講者数は1万人を突破しました。

社会貢献教育プログラムの累計受講者数（人）
（2010年の事業開始以来）



累計受講者数
1万人突破！
（2010年の事業開始以来）



2020年度
35教室
1,166名

2020年度開催校一覧

都道府県	実施プログラム	実施日	学校名	学年	教室数	受講者数
長野県	寄付の教室	8月27日	学校・長野市立長野中学校	中学1-3年生	3教室	75名
福岡県	寄付の教室	10月24日	折尾愛真高等学校 介護福祉士コース	高校1年生	1教室	17名
東京都	寄付の教室	11月12日	ドルトン東京学園 中等部・高等部	中学2年生	4教室	120名
東京都	社会に貢献するWS	11月18日	都立向丘高等学校	高校1年生	7教室	280名
東京都	寄付の教室	11月25日	都立足立高等学校	高校1年生	7教室	280名
東京都	社会に貢献するWS	12月2日	都立竹台高等学校	高校3年生	6教室	179名
兵庫県	Learning by Giving	11月6日-12月11日	県立小野高等学校	高校3年生	1教室	10名
東京都	Learning by Giving	12月15日-24日	区立板橋第三中学校	中学3年生	4教室	130名
熊本県	Learning by Giving	3月22-23日	真和高等学校	高校1・2年生	1教室	46名
オンライン	Learning by Giving	3月26-27日	全国の中高生有志 ※LbGの受講生が主体となって企画運営	中学・高校生	1教室	29名

計 35教室 1,166名

4 Learning by Givingの概要と寄付先 Details

兵庫県立小野高等学校では、ひと月にわたり生徒自らが主体的に社会課題について学び、寄付の必要性について議論を深めて、託された寄付の行く先を決めていきました。

授業の流れ (小野高校の事例)

兵庫県立小野高等学校 3年生10名 実施期間：2020年11月6～12月9日 (9時間)	
1限目	イントロダクション・社会に貢献するWS
2限目	寄付者の想いインタビュー
3限目	NPOを選ぶ際の基準作り
4限目	各グループ毎NPO情報のまとめ
5限目	NPO評価シートづくり
6限目	NPOへのヒアリング
7限目	学年全体へのNPO情報の映像提供準備
8限目	個人評価シート記入、学年支援結果の共有
9限目	寄付先の決定



コロナ禍で困難する外国人の難民・留学生・技能実習生に安心安全な住居を提供するPHD協会を寄付先に決定



「モノやお金が途絶えても、研修生への支援であればこの先もずっと続いていくという友人の言葉が決め手になりました」



「寄付者の想いを知りたい」という生徒たちの希望で、寄付者へのインタビューも行われました

寄付先候補となった団体

認定NPO法人フローレンス (子ども分野)

公益財団法人PHD協会 (国際分野) ★寄付先に決定

認定NPO法人ぽっかぽかランナーズ (障がい分野)

認定NPO法人東灘地域助け合いネットワーク (高齢者分野)

生徒たちの関心に沿って4つ分野から団体をピックアップしました

Learning by Givingの開催実績

実施期間・実施校・参加人数	寄付先・寄付額	選定理由
11月6日-12月9日 兵庫県立小野高等学校(兵庫) 3年生 10名	◆公益財団法人PHD協会 (30万円) http://www.phd-kobe.org アジア・南太平洋地域から研修生を招聘、草の根の人々による自立した村づくりに協力	30万円で出来ることは限られるけど、PHD協会への支援は育成した途上国の人たちが現地に帰って活躍することで、課題の解決を持続的に進めることが出来るから
12月15-12月25日 板橋区立板橋第三中学校(東京) 3年生130名 (4学級)	◆NPO法人キッズドア (1・2・4組、計30万円) ◆NPO法人日本補助犬情報センター(3組、10万円) キッズドア (子どもの貧困支援) https://kidsdoor.net 日本補助犬情報センター (補助犬への理解と普及) https://www.jsdrc.jp	(キッズドア) 自分達と同じくらいか、それ以上に小さい子ども達が苦しんでいる状況を知り、今後の社会のために寄付をしたいと思いました。 (日本補助犬情報センター) 10万円でできることが幅広く、障害のある方々の社会進出を助けられると思いました。
3月22日・23日 真和高等学校(熊本) 1・2年生 46名	◆NPO法人菊池公園歴史の森 (30万円) https://www.facebook.com/NPO法人-菊池公園歴史の森-386093605168681/ 菊池神社周辺の里山の環境整備・保全活動	30万円のインパクトを考えると、私たちの寄付がより活きる支援を考えた結果、熊本のために活動してくれていてコロナ禍の影響を最も受けている、菊池公園歴史の森に寄付することに決めました。
3月26日・27日 全国の中高生有志 29名 ※受講生である中高生が主体となって企画運営	◆NPO法人サンカクシャ (10万円) https://www.sankakusha.or.jp 学校や社会に馴染めない若者に、つながりや「社会サンカク」の場を作る	自分たちと同世代で、同じ日本国内で生きることに辛さを感じている若者に対して、他人事ではない、自分たちにとって解決すべきと思える活動をしているので、寄付が最も活かせると思ったからです。

今年度も引き続き、市立札幌開成中等教育学校、中央大学附属高等学校でプログラムの実施が予定されています。同校の生徒たちは、3月末にオンラインで行われたのLbGのプログラムにも先行して参加するなど、高い意欲をもって授業に臨もうとしています。

5 体験者の声 Voices

受講生の声



佐藤 晴香さん

(兵庫県立小野高等学校／当時)

「誰かがやってくれる」その誰かに私がやらなければいけないと思いました

新聞記事でLearning by Givingを知り、やってみたく先生に提案しました。この活動を通じて一番思ったのは、支援をすることで人から感謝されたり、自分たちも学んで成長した部分が、これからどんどん自分を支えるものになるということです。私たちが社会貢献をすることによって、逆に支えられる存在になっていて、そんな風に人と人が支え合って、お互いに高い壁も乗り越えていけるような社会になればいいなと思っています。

教員の声

学びをその先の未来までもっていく子がいる、そう確信した授業でした

寄付者の想いに応えようと、子ども達がこれほどまでに真剣になるのだというのが、一番大きな気づきでした。NPOの方と話したときに、「自分が偏見を持っていることに気がついた」という生徒が数人いました。中学生でそう思ったことは、本当にすごいことだと思います。生徒達から、自分の生活やこれまでの経験など、自分の中に引き寄せて考えている言葉が聞かれました。今回の学びをその先の未来までもっていく子が、未来がかわる子がいることに確信が生まれたプログラムでした。



輪湖 みちよ教諭
(板橋区立板橋第三中学校)

ファシリテーターの声



米原 裕太郎さん

(京都市ユースサービス協会)

子ども達の次のステップをどう作っていくか、この先が重要になります

生徒達は、それぞれの想いで意見を述べ、どの意見も否定されことなく受け入れられていました。託された寄付をどの団体に渡すか、葛藤も見られる中で、全員で大きな決断を下すことができました。

生徒達には、ロールモデルとして今回の経験を伝えてほしいと思います。彼らの次のステップを、私たちやNPO側がどのように作っていくか、プログラムのその先が重要になります。

寄付先候補となったNPOの声

中学生の皆さんに恥ずかしくないよう、誠実な活動をしようと思いました

今回このプログラムに参加させていただき、教育の大事さ、学ぶことの楽しさ、視点づくりから自分の価値観を知ることの面白さなど、Learning by Givingのプログラムの可能性は無限だと感じました。中学生の皆さんに恥ずかしくないよう、私たちが誠実な活動をしようとして気持ちを引き締めました。



佐々木 千恵美さん
(NPO法人ドリームタウン 理事)

6 成果評価 Impact Evaluation

昨年に引き続き授業効果の成果評価を行い、「Learning by Giving」「社会に貢献するワークショップ」「寄付の教室」いずれにおいてもポジティブな変化が確認されました。

分析は、武蔵大学粉川一郎教授のご協力のもと授業実施前(プレテスト)と実施後(ポストテスト)に同様の質問を行い、回答の変化を比較する形式で行われました。

社会貢献教育の各プログラム(「Learning by Giving」「社会に貢献するワークショップ」「寄付の教室」)のいずれにおいても、ポジティブな変化が確認されました。中から、Learning by Givingのプログラムを受講したサンプル数の多い板橋第三中学校(回答数:96)の分析結果を抜粋してご紹介します。

同校の分析では、当初意図されていた①社会課題を理解する、②責任感の醸成、③社会課題への主体性について、いずれも一定レベル以上の成果が挙がっていたことが明らかになりました。

知っている社会課題を5つ以上挙げ、その中の一つを具体的に説明する質問に対する回答の結果が図1になります。記述量の増加に加えて、ポストテストでは、普段メディアでは触れることの少ない社会課題について触れられているなど、多様な社会課題に対する認識が向上したと考えられます。

また、「社会課題を解決するのは誰か」について単語で5個以上回答する質問に対する回答の変化が表1になります。プレテストでは言及の少なかったNPOがポストでは一気にトップに躍り出ていることに加え、プレテストでは見られなかった「自分」という言葉がポストでは出現しています。

そのことから、授業を通じて生徒たちに明確な当事者意識が生まれていることが分かります。また、さまざまなNPOが課題解決に大きな責任を持っていることも十分理解されたと考えることができます。



Learning by Givingを受講した
板橋第三中学校の分析結果より抜粋

図1 知っている課題、説明分量の変化

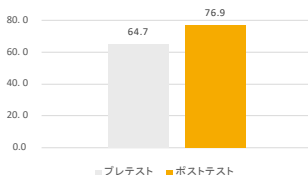


表1 社会課題を解決するのは誰かという質問に対する回答の比較

プレテスト	ポストテスト
抽出語	抽出語
政府	45 NPO
国民	27 政府
内閣	18 人
人	17 国
国会	15 国民
国	11 キッズドア
裁判所	8 自分
NPO	7 山友会
自分	6 ドリームタウ
国連	5 補助犬
官	5 センター
団体	5 国会
ACジャパン	4 団体
学校	4 内閣
個人名	4 寄付
区	4 個人
警察	4 情報
総理	4 地域
NGO	3 日本
会社	3 法人
個人	3 ACジャパン
職員	3 NGO
政治	3 WHO
専門	3 会社
相談	3 人々
大臣	3
地方	3

7 見えてきた課題、今後の方向性

Key points of 2021

1

発信力の強化

価値を発信し、次の参加者を生み出す仕組みづくり

2020年9月に完成したポータルサイトには、全国の事例・担い手・教材といった、社会貢献教育の実践を後押しコンテンツが掲載されています。これまでは、教員をはじめとする実施者向けのコンテンツが中心となってきましたが、受講した生徒たちが自ら発信する場としても機能させ、プログラムを広げる好循環を生み出していきたいと考えています。

社会貢献教育ポータルサイトにはインターン生として活躍する元受講生のレポートが多数アップされています



受講後の次の一歩を後押しするコミュニティの創出

プログラムを受講した生徒たちが、その後、学校外の様々な社会貢献の取り組みに参加し、実際に社会に変化を生み出していくために、受講後の生徒たちが学校を超えてつながるオンラインコミュニティの創出に取り組みます。

また、子ども達のチャレンジを応援するために必要なリソースをもつ大人(教員やNPO関係者、ファンドレイザーなど)とつながる機会を創出し、大人と子どもが互いに応援し合う、フラットなコミュニティを目指します。



LbGを受講した子ども達の初のミートアップイベントを開催(4月28日)
受講の感想やその後の変化がシェアされました

2

コミュニティ化

3

持続可能性

真に持続可能な取組みとするための財源の獲得

安定的な財源の確保のため、「社会貢献教育サポーター制度」の獲得強化に加えて、ともに取り組みを進めてくださるパートナー企業からご支援を今後も募ってまいります。また、引き続き先進的な取り組みに挑戦するため財団等の助成を獲得してまいります。加えて、人生最後の社会貢献である「遺贈寄付」の受け皿としての基金設置にも着手してまいります。

8 希望するすべての学校に社会貢献教育を Take Actions



今後もさまざまな方法で子ども達の学びを支えてください

寄付で応援



サポーターとして 寄付で支える

月々1,000円からのご寄付で活動を支える
「社会貢献教育サポーター」
に参加する

担い手として応援



ファシリテーター として授業を行う

子ども達の案内役として全国で授業を行う
「社会貢献教育ファシリテーター」を目指す

リソースで応援



子ども達の次の一歩に 寄り添う

ご自身の専門性やネットワークで受講後の子ども達の次のチャレンジを応援する

月々1,000円の寄付で子ども達の学びを応援
社会貢献教育サポーターの詳細はこちら▶





[発行] 認定NPO法人日本ファンドレイジング協会

〒105-0004 東京都港区新橋5-7-12 ひのき屋ビル7F Tel: 03-6809-2590

日本ファンドレイジング協会は、2009年に日本全国47都道府県から580人の発起人の賛同を受け、寄付・社会的投資が進む社会の実現を目指して設立されました。民間非営利組織のファンドレイジング（資金集め）に関わる人々と、寄付など社会貢献に関心のある人々のためのNPOとして、認定ファンドレイザー資格制度や「ファンドレイジング・日本」、子ども向けの社会貢献教育、遺贈寄付の推進、寄付白書の発行などに取り組んでいます。